



写真1. 宝塚1号墳の船形埴輪
(写真提供：松阪市教育委員会)

写真2. 琴柱形石製品
(雪野山古墳出土)
(掲載許可：東近江市教育委員会)



盆地底となる鴨都波遺跡付近は現在、北を柳田川、南を葛城川という2つの天井川によって画され、また、遺跡のすぐ東側でその2つの川が合流することとも相まって、付近の地下水位は、集落が営まれた当時に比



其の二十

生涯学習課文化財係
☎内線696

古墳時代(8)
鴨都波1号墳 (4)
水浸しの主体部と漆の美(その1)

三重県松阪市所在の前方後円墳、宝塚1号墳から出土した船形埴輪(写真1)は、外洋航海に用いられた構造船を写したのですが、多くの器物が立て並べられた表現があることでも有名です。最前列には刀剣の

とりわけ漆膜の残りの良さは、1650年前当時のさまざまな器物の本来の姿をわたしたちの前に現出させ、多くの謎を解くことに寄与しました。

して非常に高いものになっています。鴨都波1号墳は、そのような環境にある現在の水田の地下から検出されましたから、埋葬主体は長い間、極めて高い地下水位に晒されていたことになり、この点でも極めて異例といえます。このため、鉄製品は既に土に変わるほど劣化していました。一方、木棺をはじめとする有機質の遺存状況には目を見張るものがありました。

把部分、最後尾には貴人の頭上に差し掛けられる蓋が表現されたことについては異論はありません。しかし、中間の2つの立物については、石見型と呼ばれる形象埴輪のうち、より古い一群に近似していることが指摘されたものの、この石見型埴輪が何を写したものののかについてはさまざまな議論がありました。一応、儀杖(玉杖)説が有力になっていきましたが、宝塚1号墳の船形埴輪に見られるような、上部に二つの突起の付くタイプの碧玉製琴柱形石製品(写真2)はサイズが小さいので、杖としての機能にも疑問が残りますし、仮に掌中に収まる程度の小形の儀杖や指揮棒だとしても、それが宝塚1号墳の埴輪に見られるような大きさに表現されたと考えるには無理があります。

そうした中、鴨都波1号墳の調査で、これらのモデルになったものが槍(写真3)であったことがほぼ確定的になりました。槍の先端には漆塗の鞘がかぶせてあり、特にその上半部の鞘尻装具(写真4)は、右記した宝塚1号墳船形埴輪の立物、雪野山古墳の琴柱形石製品そして古いタイプの石見型埴輪の形状にまさにそっくりです。そして、その鞘尻装具には直線と円で構成される、直弧文と呼ばれる古墳時代特有の文様が刻まれていました。この直弧文は石

見型埴輪にもよくみられる文様です。考古学では一つの調査で認識が大きく進むことが時々あります。鴨都波1号墳の水浸しの主体部はそうした事例の典型例といえるでしょう。

見型埴輪にもよくみられる文様です。考古学では一つの調査で認識が大きく進むことが時々あります。鴨都波1号墳の水浸しの主体部はそうした事例の典型例といえるでしょう。



写真3. 鴨都波1号墳の槍と鞘
(2本の槍が重なって出土した。)



写真4. 鴨都波1号墳の槍と鞘
(槍先端部と鞘尻装具を拡大)



2010. 4

(文責 藤田和尊)